平成28年度事業報告について

会長	渡邊　博昭

平成28年度もこれまでの会務を遂行するとともに，日臨技北日本支部医学検査学会（第５回）の運営を行った。本学会の一般演題数は130題であり，参加者数は約1,100名であった。

本年度も理事が一丸となって努力して参りましたが，至らぬ点が多々ありご迷惑をお掛けしたと思います。しかしながら無事に終えましたことは会員の皆様のご理解とご協力によるものと感謝いたします。

平成28年度の事業の概要を下記の通り報告する。

総務部

① 平成26年度から一般社団法人に移行したため，定款の確認および各種規定および手順書の見直しを行った。

② 会計士の指導の下，会計の見直しを行った。

③ 表彰関係は昨年度通りの事業を行った。

学術部

１．日臨技北日本支部医学検査学会（第５回）を開催した。

２．精度管理事業は，日臨技のシステムを使用して事業を行った。

３．検査研究部門活動は活発に開催され，日臨技助成金に対して19研修会の申請を行った。

広報部

① 会誌，ニュース，ホームページがそれぞれの役割を明確にして事業を行った。特にホームページは迅速な対応を行った。

総務部	副会長　吉原　正弘

1．通常総会の開催

平成28年５月22日（日）新潟ユニゾンプラザにおいて平成28年度通常総会を開催し，平成27年度事業報告，同決算報告，監査報告の説明があり，また，平成28年度事業計画（案），収支予算（案）が提案され，特に質疑はなく拍手で承認された。

2．会務の執行体制

1）職務分担

平成28年度は役員任期の後期にあたったが，前年同様に学術部，広報部，総務部の３部門に理事を配置し，各部門との連携を図りながら会務を執行した。

2）事務局体制

事務局業務が非常に多くなっている現状で，阿部事務員の努力により諸会議の準備や日臨技・北日本支部および会員との連絡・調整役を担い，又，JAMTIS 運用による会員情報登録および変更作業を迅速に処理し，組織運営上，大変重要な役割を果たしている。

3．諸会議の開催

1）理事会　第１回　平成28年４月16日（新潟県公社総合ビル３Ｆ会議室）
第２回　平成28年５月22日（新潟ユニゾンプラザ４Ｆ会議室）
第３回　平成28年６月18日（新潟県公社総合ビル３Ｆ会議室）
第４回　平成28年７月９日（新潟県公社総合ビル３Ｆ会議室）
第５回　平成28年８月27日（新潟県公社総合ビル３Ｆ会議室）
第６回　平成28年９月24日（新潟県公社総合ビル３Ｆ会議室）
第７回　平成28年10月29日（新潟県公社総合ビル３Ｆ会議室）
第８回　平成28年12月17日（新潟県公社総合ビル３Ｆ会議室）
第９回　平成29年１月21日（駅南貸会議室 KENTO　RoomA）
第10回　平成29年２月18日（新潟県公社総合ビル３Ｆ会議室）
第11回　平成29年３月18日（新潟県公社総合ビル３Ｆ会議室）

2）常任理事会

定例常任理事会は従来どおり原則として毎月第２土曜日に開催し，平成28年度は１回開催した。

3）三役会議

急な協議事項等についてはメール等を利用し協議を行ない，特に三役会議は開催しなかった。

4）各種委員会の開催

⑴　会誌編集委員会

新臨技会誌（季刊発行）第299号から第302号の編集業務のため，４回開催した。

⑵　ホームページ委員会

会員への情報伝達手段としてホームページの充実と運用に努めた。

⑶　検査研究部門委員会議

各検査研究分野の活動計画並びに運営等を協議するため１回開催した。

⑷　生涯教育研修委員会

理事会や各支部生涯教育委員と連絡をとりながら研修会予定および参加者の登録を行った。

⑸　精度管理委員会

精度管理調査の事業計画，集計処理状況把握，検討会企画の協議のため６回開催した。

⑹　表彰委員会

各種表彰の対象者選考のため１回開催した。

4．組織対策

1）入会対策

会員数の多い年代が定年を迎え会員数の減少が懸念されるが，各支部役員および各施設連絡責任者の協力により入会を勧めた。

本年度の新入会および再入会の会員数は80名。

本会の正会員総数は1,339名。（平成29年３月現在）

社会的地位向上および今後の業務拡大の為にも，更に多くの会員の入会をお願いする必要がある。

2）各支部との連携強化

各支部ともその地域性を生かした独自の活動が浸透し，年々活発化している。支部総会等に役員を派遣し，連携強化を図った。

5．地域保健医療活動および公益事業

1）新潟県臓器移植財団へ賛助会員として参画

2）糖尿病を知る集いへ佐渡支部が血糖測定で協力（６月12日）

3）父の日企画「家族で守ろうパパの健康チェック」へ中越支部が共催団体として参画（６月19日）

4）中越沖地震エコノミークラス症候群フォーローアップ検診に協力（柏崎市　７月16～17日）

5）すこやかともしびまつりへ中越支部が共催団体として参画（９月17・18日）

6）健康寿命延伸フォーラムに参画（９月22日）

7）糖尿病を知る集いへ中越支部が共催団体として参画（10月１日）

8）ピンクリボンホリデー2016へ新潟県臨床検査技師会として参画（10月16日）

9）第16回新潟市健康福祉まつりへ共催団体として参画（10月16日）

10）糖尿病を知る集いへ血糖測定で協力（10月22日）

11）無料 HbA1c 測定会（新潟駅南キャンパスときめいと）を実施（11月12日）

12）世界糖尿病デーin 長岡2016へ中越支部が参画（11月13日）

13）糖尿病を知る集いへ佐渡支部が血糖測定で協力（11月12日）

14）中越地震エコノミークラス症候群フォーローアップ検診に協力（小千谷市　10月29～30日）

15）中越地震エコノミークラス症候群フォーローアップ検診に協力（十日町市　11月27日）

6．求人情報

日臨技への情報登録とともに，会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供した。

7．災害関係

災害支援活動や会員の安否確認に威力を発揮する災害支援ネットワークに賛同と登録をお願いした。

登録者は72名（平成29年３月現在）となった。

8．表彰関係（敬称略）

1）第34回篠川至賞（篠川至賞選考委員会を経て平成28年５月22日通常総会にて表彰）

功　労　部　門　　伊　藤　剛　栄（新潟支部）

学　術　部　門　　芳　賀　博　子（中越支部）

2）平成28年度功労者表彰（平成28年５月22日通常総会にて表彰）

⑴　永年会員功労者表彰　　該当者44名

⑵　特別功労者表彰　　筑　波　　聡（上越支部）　　芳　賀　博　子（中越支部）

小　林　宏　一（下越支部）　　渡　邊　博　昭（新潟支部）

3）平成28年度生涯教育履修表彰（平成28年５月22日通常総会にて表彰）

奨　　励　　賞　　桑　原　喜久男（済生会三条病院）　　760点

坂　西　　清（魚沼基幹病院）　　360点

菅　原　芳　秋（日本歯科大学医科病院）　360点
林　　真　也（新潟県立中央病院）　350点
新　人　賞　齋　藤　　温（新潟大学医歯学総合病院）　310点

4）第５回日臨技北日本支部医学検査学会テーマ賞（平成28年５月22日通常総会にて表彰）
小　林　浩　二（北里大学保健衛生専門学院）

学術部　副会長　桑原　喜久男

平成28年度日本臨床衛生検査技師会北日本支部医学検査学会第５回開催という大きな事業を中心に検査研究部門活動，精度管理事業，生涯教育を活動の根幹として１年間活動を行った。

１．学会　桑原　喜久男

平成28年10月１日，２日に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにおいて，平成28年度日本臨床衛生検査技師会北日本支部医学検査学会第５回を開催した。学会テーマは，「次世代医療の扉を開く Toki」～臨床検査イノベーション～として，一般演題130題，特別講演１，教育講演９，教育カンファレンス２，シンポジウム１，パネルディスカッション１，日臨技企画シンポジウム１，新潟県内の臨床県技師育成校４校との共催パネルディスカッション１，ランチョンセミナー14が行われ，北日本支部１道，７県より会員768名，賛助会員55名，学生262名，合計1,085名の参加を頂いた。本学会の特徴は大きく２点あり，１つは臨床検査技師を目指す学生に学術集会に参加・聴講するだけではなく，指導教諭と研究した成果を８演題発表していただいたことである。また，求められる臨床検査技師像～現場の思い・学生の思い～をテーマにパネルディスカッションを行い，新人技師を受け入れる施設としてどのような学生を求めているのか，就職した技師からのアドバイス等に多くの学生が熱心にメモを取り熱気あふれるシンポジウムとなった。もう１点，日臨技が推し進める病棟業務についての一般演題，シンポジウムが行われ，多くの会員よりご参加いただき，活発な意見交換が行われた。臨床検査技師が病棟においての活動をどのように取り組んでいくのか，その方向性，可能性について多くの会員が興味を寄せていることが伺えた。メインテーマの『次世代医療の扉を開く Toki』に沿い，今後の臨床検査技師が向かうイノベーションの方向性，可能性を示すことのできた学会となったと考える。

２．検査研究部門　池亀　央嗣

平成28年度は，検査研究部門の組織再編が行われた最初の任期の終了年であった。一昨年度までは，６部門，13分野の構成で運営されてきたが，平成27年度から９部門３分野（生物化学分析部門，臨床一般部門，臨床血液部門，臨床微生物部門，輸血細胞治療部門，病理細胞部門，染色体・遺伝子部門，臨床生理部門，臨床検査総合部門の９部門であり，臨床生理部門は，神経生理分野，循環生理・呼吸生理分野，超音波分野の３分野から成る）に再編された。このうち，生物化学分析部門は，旧臨床化学分野と旧免疫血清分野が，病理細胞部門は，旧病理分野と旧細胞分野が，臨床検査総合部門は，旧疫学・公衆衛生分野と旧管理運営分野がそれぞれ統合された。旧生体機能分野は，神経生理分野と循環生理・呼吸生理分野に分割された。その他の部門は，概ね旧分野からそのままの移行となった。部門構成人員も各部門６名，分野は４名となった。また，活動費もこれまでの各分野８万円から，各部門12万円・各分野８万円に変更された。

検査研究部門が開催した研修会は，合計19回開催された（昨年度19回，一昨年度22回）。研修会数は，昨年度と同じで，再編前の22回に比して減っているが，今年度は平成28年度日本臨床衛生検査技師会北日本支部医学検査学会（第５回）の開催があったことにも関わらず19回を保持したことは各部門の努力の賜物と思われる。

研修会の内容では，臨床生理部門は，２日間に渡る研修会や実技研修を積極的に開催し，非常に多くの参加者を得た。臨床一般部門，臨床血液部門，輸血細胞治療部門も実技実習を積極的に取り入れ，研修レベルを初心者・中堅者別など，細部まで行き届いた形式を設けた。他団体や他学会との共催も多く，他職種と合同での

研修会も開催された。

実習形式の導入や他団体との合同企画，積極的なアイデアなどがあり，平成28年度日本臨床衛生検査技師会北日本支部医学検査学会（第５回）でも各部門が総力を挙げて企画・運営に当たった。この２期４年間は，第63回日本医学検査学会，平成28年度日本臨床衛生検査技師会北日本支部医学検査学会（第５回）と大きな学会が続いたがこれらの経験を各部門における学術活動に生かしてもらいたい。

検査研究部門の研修会

部門	開催日	生涯教育点数	参加人数		研修会内容
			会員	非会員	
生物化学分析	平成28年 11月12日（土）	専門20	25	0	【生物試料分析科学会甲信越支部新潟分科会第13回研修会／新潟県臨床検査技師会生物化学分析部門合同研修会】 講演：「はじめての統計学的仮説検定」 北里大学保健衛生専門学院　小林　浩二　先生 会場：北里大学保健衛生専門学院　北里ホール情報センター ＊生物試料分析科学会甲信越支部新潟分科会と共催
	平成29年 ３月４日（土）	専門20	21	1	【新潟県臨床検査技師会生物化学分析部門 第47回日本臨床化学会甲信越支部新潟分科会合同研修会】 １．「電気泳動によるリポ蛋白分画の基礎と応用」 株式会社ヘレナ研究所営業部　宮下　真一　先生 ２．「検査データから読み解く脂質異常症」 順天堂大学大学院医学研究科臨床病態検査医学　三井田　孝　先生 会場：新潟大学医学部　第４講義室 ＊日本臨床化学会甲信越支部新潟分科会と共催
臨床一般	平成28年 ５月21日（土）	専門20	68	3	【平成28年度第１回新臨技臨床一般部門研修会】 １．集まれ！一般検査室の異型細胞その①尿沈渣 国立病院機構東近江総合医療センター研究検査科　佐伯　仁志　先生 ２．腎臓超音波検査と尿検査の関連 長岡赤十字病院検査技術課　丸山千恵子　先生 ３．何が変わった？髄液検査 弘前市立病院臨床検査科　石山　雅大　先生 ４．AKI の新規バイオマーカー尿中 NGAL の意義 アボットジャパン株式会社学術情報室　青木　和雄　先生 ５．これから変わる？体腔液検査 弘前市立病院臨床検査科　石山　雅大　先生 ６．集まれ！一般検査室の異型細胞その②体腔液 国立病院機構東近江総合医療センター研究検査科　佐伯　仁志　先生 会場：新潟大学医歯学総合病院　12階　大会議室
	平成28年 10月15日（土）	専門20	23	1	【平成28年度第２回臨床一般部門研修会（実技研修会）】 顕微鏡の使用方法，基礎成分解説，顕微鏡写真撮影方法，鏡検実習 会場：新潟医療技術専門学校 A 棟２階第３実習室
	平成28年 11月20日（日）	専門20	26	3	【平成28年度第３回新臨技臨床一般部門　新潟支部一般検査研究班合同研修会】 学会・研修会参加報告 新潟医療技術専門学校　白川千恵子　先生 労働衛生医学協会新潟ウェルネス　計良　政裕　先生 講演１：尿化学検査の基礎から尿中バイオマーカーの動向まで 慶應義塾大学病院中央臨床検査部　石澤　毅士　先生 講演２：症例データをどう考えるか 慶應義塾大学医学部臨床検査医学　菊池　春人　先生 会場：新潟大学医歯学総合病院　12階　大会議室
臨床血液	平成28年 ８月27日（土）	専門20	36	0	【臨床血液部門　実技研修会】 基本的な血液細胞観察の仕方と鏡検実習および症例解説 解説・指導：臨床血液部門　部門員 会場：新潟医療技術専門学校　A 棟２階　第３実習室
	平成29年 １月21日（土）	専門20	31	2	【臨床血液部門研修会】 「好中球系細胞の新分類基準」 「各施設における体腔液検査の実際」 済生会新潟第二病院　小野　篤史　先生 新潟大学医歯学総合病院　堀川　良則　先生 新潟県立新発田病院　水野　祐子　先生 「血液検査からみた体腔液検査」 獨協医科大学病院臨床検査センター　新保　　敬　先生 会場：新潟大学医歯学総合病院　12階　大会議室
臨床微生物	平成29年 ２月11日（土）	専門20	45	1	【平成28年度　新臨技臨床微生物部門研修会】 講演：抗酸菌症の診断・治療 update 進歩と限界について 国立病院機構西新潟中央病院　桑原　克弘　先生 講演：解説抗酸菌検査ガイド2016 京都大学医学部附属病院検査部　樋口　武史　先生 会場：新潟大学駅南キャンパス　ときめいと　講義室 A，B

輸血・細胞治療	平成28年 ６月18日（土）	専門20	90 （賛助会員：２）	0	【輸血細胞治療部門研修会】 魚沼基幹病院検査科見学 第64回日本輸血・細胞治療学会総会参加報告 報告者：新潟県立中央病院　高橋　政江　先生 新潟県立がんセンター新潟病院　見辺　典子　先生 講演１「輸血検査の基礎知識」 北里大学保健衛生専門学院　笹岡　悠一　先生 講演２「検査室でできる亜型検査」 講師新潟県赤十字血液センター学術・品質情報課　古俣　妙　先生 会場：魚沼基幹病院　１階　講堂
	平成28年 ７月24日（土）	専門20	57	0	【平成28年度　輸血細胞治療部門　輸血検査実技講習会】 ＜基礎コース＞ 血液型，不規則抗体検査を実施し，凝集の見方，試験管の振り方等，初歩的な技術・考え方の習得を目指します。新人や専門に輸血検査をやられていない初心者，初級レベルの方が対象 ＜認定および技能維持コース＞ 血液型，不規則抗体検査，抗体解離試験等を実施し，総合的に輸血検査の理解を深めます。専門に輸血検査をやられている方や，ある程度の基礎技術を持っている中級者レベル以上の方が対象 会場：新潟医療福祉大学　第６研究棟
病理細胞	平成28年 ７月２日（土）	専門20	39	0 （学生２）	【第38回新潟病理技術研究会（病理細胞部門共催）】 情報紹介： ハイクロソフト水生成装置の紹介 自井松機器株式会社　齋藤　靖宏　先生 病理システム「パソトピア」とスライド，カセットプリンターの紹介 武藤化学株式会社　吉川　祐援　先生 教育講演： 「病理の医療安全について」 聖マリアンナ医科大学病院病理診断科　島田　直樹　先生 特集　病理解割について： 「病理解剖業務の実際と注意点（仮）」 新潟医療センター　内藤　員　先生 剖検介助業務の実際と一工夫 新潟医療センター　長谷川秀浩　先生 信楽園病院　坂本　直喜　先生 新潟市民病院　樋口　忠博　先生 会場：新潟大学医歯学総合病院　西館３階　第２検討室 ＊新潟支部病理検査研究班と共催
	平成28年 10月22日	専門20	56	6 （学生２）	【平成28年度病理細胞部門研修会】 教育講演： 「増え続ける中皮腫～病理診断の困難さ～」 東京女子医科大学八千代医療センター病理診断科　廣島　健三　先生 技術講演： 「中皮腫細胞診の現状とこれから」 公立昭和病院病理診断科　濱川　真治　先生 会場：新潟大学医歯学総合病院　12階　大会議室 ＊新潟県細胞検査士会，新潟支部病理検査研究班と共催
染色体・遺伝子	平成28年 11月12日	専門20	24	4	【平成28年度染色体・遺伝子部門研修会】 技術講演： 「臨床検体からの核酸抽出（原理，コツ）」 ロシュ・ダイアグノスティックス㈱　高橋　邦明　先生 教育講演： 「血小板によるがん転移促進機構とそれを標的とした新規治療法の開発」 がん研究所がん化学療法センター　竹本　愛　先生 ミニ解説： 「当院における腫瘍関連遺伝子変異検査」 長岡赤十字病院　高頭　秀吉　先生 会場：新潟大学医学部　第４講義室
臨床生理	平成28年 ６月26日（日）	専門20	65	7	【臨床生理部門研修会生理検査基礎セミナー】 レクチャー： １．呼吸機能検査 新潟大学医学部保健学科　齋藤　修　先生 ２．心電図 新潟県立中央病院　宮崎　智美　先生 ３．生理検査に役立つ血液データの見方済 済生会三条病院　桑原喜久男　先生 教育講演： 「心不全の病態と治療」 新潟大学医歯学総合病院　循環器内科　柏村　健　先生 会場：新潟大学医歯学総合病院　12階　大会議室

	平成28年 ８月27日（土）： 新潟会場 ８月28日（日）： 長岡会場	専門20	41	1	【平成28年度超音波実技セミナー】 心臓・腹部・血管領域を Hands-On 形式で行う実技研修 心臓超音波：基本断面の走査法，装置の設定，心機能計測法など 新潟大学　齋藤　　修　先生 厚生連新潟医療センター　三富　　圭　先生 腹部超音波：基本断面の走査法，装置の設定など 新潟県立中央病院　宮崎　智美　先生 新潟県労働衛生医学協会新潟健康増進センター　若林　佳美　先生 血管超音波：下肢静脈・DVT の標準的検査法 魚沼基幹病院　瀧澤　瑠美　先生 新潟会場：新潟大学医歯学総合病院　12階　大会議室 長岡会場：厚生連長岡中央綜合病院　２階　講堂
	平成28年 12月４日（日）	専門20	25	4	【平成28年度超音波検査士対策セミナー】 「超音波検査に必要な物理学的基礎知識」 東芝メディカルシステムズ営業本部超音波営業部　浜田　聡明　先生 会場：新潟大学医歯学総合病院　12階　大会議室
	平成29年 ３月18日（土）	専門20	63	2	【臨床生理部門神経生理分野・新潟支部生理研究班共催研修会　神経生理検査セミナー】 講演１：「脳波計の ABC」 日本光電北関東㈱病院営業部検査ソリューション課　斎藤　昌伸　先生 講演２：「脳波の電極装着から記録法」 自治医科大学附属病院臨床検査部　柳田　浩己　先生 講演３：「脳波波形の見方と報告」 東邦大学医療センター大森病院臨床生理機能検査部　杉山　邦男　先生 会場：新潟大学医歯学総合病院　12階　大会議室
臨床検査総合	平成28年 ５月14日（土）	専門20	24 （賛助会員：２）	0	【臨床検査総合部門管理運営研修会】 「診療報酬改定について～検査部門を中心に～」 ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 営業部門ラボソリューショングループ東日本チーム　井汲　善浩　先生 「教えて？検査部門での ISO15189取得前と取得後の検査室」 東京医科歯科大学医学部附属病院　萩原三千男　先生 会場：立川綜合病院多目的施設きぼう　３階　講堂
	平成28年 12月10日（土）	専門20	24	5	【平成28年度臨床検査総合部門（公衆衛生）研修会】 「免疫検査における感染症項目の注意点」 富士レビオ株式会社北関東支店学術サービス部　福田雅之助　先生 「A 型肝炎と E 型肝炎の動向と対策について」 国立感染症研究所ウイルス第二部　石井　孝司　先生 会場：コープシティ花園「ガレッソ」４階　会議室

３．精度管理事業　　坂西　　清

今年度も新潟県から新潟県医師会への委託事業である第37回平成28年度新潟県臨床検査精度管理調査会を新潟県臨床検査技師会として行った。この事業は技師会としても積極的に当事業に協力し，集計，解析を含めた実務の中心的役割を果たすと共に，臨床検査の精度向上に努めた。

本事業を担当する精度管理委員会は全体会議と臨床化学担当の分科会を含め計６回開催し，実施計画及び配送準備，データ集計，解析を実施した。

本年度も感染症実施項目は微生物検査に技師会が担当する一般菌の１菌種について感受性を実施し，新潟県保健環境科学研究所が担当する２菌種の同定を合わせて実施した。臨床化学は昨年同様27項目で実施した。調査試料は低濃度域に自家製人プール血清を用い，高濃度域には昨年同様市販管理試料を用いた。今年度より，評価基準を，（一社）日本臨床衛生検査技師会精度管理調査と同じ評価方法で行った。ただし，本年度も試料11にヒトプール血清を使用しているため，ALT，Cre において低濃度となったため暫定的に評価基準を目標値±10％とした。LD は，ばらつきが確認されたため暫定的に±５％とした。また，Na，及び Cl は日本臨床衛生検査技師会精度管理調査と同様に評価Ｂ以下の基準を変更した。K は BA が1.9％あるが，規格の運用において，「測定値が小さく，目標値× BA（％）の値，あるいは目標値×５％（許容誤差限界上限）の値が，日常報告している結果報告桁数の最小単位未満となる項目は結果報告桁数の最小幅の２倍を許容誤差限界とすることを推奨する。」となっていることから目標値±0.2mEq/L とした。

なお，尿素窒素は ReCCS の標準物質の認証値は内因性のアンモニアを含んでいないことからアンモニア消去（回避）法以外の測定方法，そして CK のアキュラスオート（シノテスト）は市販ヒト由来管理血清である試料12の反応性が異なることから，また測定方法未記入等は目標値の設定が不可能であるため評価対象外とした。

ドライケミストリー法は Na，K，Cl はドライケミストリー法以外の方法と同様の評価基準としたが，それ

以外の評価項目はマトリックスの影響を受けやすいため，評価Ｂを1.5倍（目標値±7.5％）に広げた。

また，集計に用いた精度管理用システム（JAMTQC）は５施設以下の集団の統計処理，および目標値の設定が不可能であるため，方法別および試薬別に目標値を設定した項目で５施設以下の場合は評価を「施設別報告書」に反映させせさせることが不可能となり，「対象外」の表記になる事から目標値を参考に自施設の正確度の判断をお願いした。また，今年度は，HbA1c の調査に低値・高値の２濃度とも市販の管理試料を利用した。結果として報告値で反応性による測定法差，メーカー差がでてきており，測定試料と各メーカーの測定法で格差が出てきている事から，次年度は委員会にて熟慮したうえで，今後の方向性を決めていくこととしたい。

集計作業の迅速化，誤登録防止を目的に今年度より，日本臨床衛生検査技師会の精度管理システムを使用しての Web 報告を実施し，特に問題なく報告作業は行われたが，まだ不備がある事から，日臨技との連携を密にして改善できることは改善していきたい。

精度管理調査事業の内容は以下のとおりである。

１．試料の到着　　臨床化学は平成28年10月24日（月）に到着予定です。

２．測　定　日　　サンプル到着後，可能な範囲で速やかに実施してください。

３．測定項目

１）臨床化学　　※生化学試料：冷凍試料　　・HbA1c 試料：冷凍試料

グルコース（Glu），ヘモグロビン A1c（HbA1c），総ビリルビン（TB），ナトリウム（Na），カリウム（K），クロール（Cl），カルシウム（Ca），無機リン（IP），鉄（Fe），マグネシウム（Mg），総蛋白（TP），アルブミン（Alb），C 反応性蛋白（CRP），尿酸（UA），尿素窒素（UN），クレアチニン（Cre），総コレステロール（TC），中性脂肪（TG），HDL- コレステロール（HDLC），LDL- コレステロール（LDLC），アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST），アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT），アルカリフォスファターゼ（ALP），乳酸デヒドロゲナーゼ（LD），アミラーゼ（AMY），クレアチンキナーゼ（CK），γ - グルタミルトランスフェラーゼ（GGT），コリンエステラーゼ（ChE）の28項目。

ドライケミストリー法は本年度も無機リン（IP）、総ビリルビン（TB）を実施しますが，参加は選択可能とします。また，LDL- コレステロール（LDLC）は実施しません。

２）血液　　※血液試料：冷蔵試料

CBC５項目（ヘモグロビン濃度，血小板数，白血球数，赤血球数，ヘマトクリット値）

４．測定方法

各施設で使用している試薬，機器を用いて測定してください。

測定回数はルーチン検査と同様，「１回測定」の測定値をご報告ください。

また，他施設の情報を得ることは禁止します。

５．サンプル及び取り扱い

１）臨床化学

※ドライケミストリー法は専用のサンプル13，14を測定してください。

試料	測定項目	取扱い上の注意
11	グルコース（Glu），総ビリルビン（TB），ナトリウム（Na），カリウム（K），クロール（Cl），カルシウム（Ca），無機リン（IP），鉄（Fe），マグネシウム（Mg），総蛋白（TP），アルブミン（Alb），C 反応性蛋白（CRP），尿酸（UA），尿素窒素（UN），クレアチニン（Cre），総コレステロール（TC），中性脂肪（TG），HDL- コレステロール（HDLC）	ヒト血清です。サンプル到着後は -40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合，できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また，感染性の確認はしてありません。取り扱いには十分注意してください。
12	LDL- コレステロール（LDLC），アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST），アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT），アルカリフォスファターゼ（ALP），乳酸デヒドロゲナーゼ（LD），アミラーゼ（AMY），クレアチンキナーゼ（CK），γ - グルタミルトランスフェラーゼ（GGT），コリンエステラーゼ（ChE）	ヒト血清由来凍結品です。サンプル到着後は -40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合，できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また，感染性の安全はできる範囲で確認済みですが，取り扱いには十分注意してください。

13 （DRY Ⅰ） 14 （DRY Ⅱ） ※ドライケミストリー法専用	グルコース（Glu），ナトリウム（Na），カリウム（K），クロール（Cl），カルシウム（Ca），鉄（Fe），マグネシウム（Mg），総蛋白（TP），アルブミン（Alb），C 反応性蛋白（CRP），尿酸（UA），尿素窒素（UN），クレアチニン（Cre），総コレステロール（TC），中性脂肪（TG），HDL- コレステロール（HDLC），LDL- コレステロール（LDLC），アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST），アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT），アルカリフォスファターゼ（ALP），乳酸デヒドロゲナーゼ（LD），アミラーゼ（AMY），クレアチンキナーゼ（CK），γ - グルタミルトランスフェラーゼ（GGT），コリンエステラーゼ（ChE）	ヒト血清です。サンプル到着後は -40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合，できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また，感染性の確認はしてありません。取り扱いには十分注意してください。
17・18	ヘモグロビン A1c（HbA1c）	市販コントロールです。ヘモグロビン濃度は約10mg/dL です。通常の検体と同様にして各種測定法での希釈方法にて希釈していただき，希釈測定をお願いいたします。（HPLC 法で使用する場合は，装置メーカー指定の溶血剤または精製水で121倍程度に希釈してご使用ください。HPLC 法以外の測定法の場合は患者検体と同様に処理して測定してください。ただし，血球層から検体を採取する測定法の場合は試薬メーカー指定の溶血剤で，41倍程度（検体の希釈が101倍の場合）に希釈して測定してください。）感染性の安全はできる範囲で確認済みですが，取り扱いには十分注意してください。また，サンプル到着後は冷凍保存し，できるだけ速やかに測定してください

2）血液

試料	測定項目	取扱い上の注意
11	ヘモグロビン濃度， 血小板数， 白血球数， 赤血球数， ヘマトクリット値	市販管理血球です。サンプル到着後は冷蔵保存してください。**（凍結厳禁）** 感染性の完全な否定はできませんので，取り扱いには十分注意してください。 〔装置の測定条件〕 マニュアルとクローズドの測定モードがある場合，マニュアルモードで測定してください。 (1) 患者検体を測定するモードで測定してください。 (2) CBC のみ（白血球分画等なし）のモードで測定をお願いします。CBC のみにできない機種はそのまま測定してください。なお，赤芽球等を白血球から除外する機能を有する機種の場合，除外前の白血球数で報告してください。 (3) ヘモグロビン測定において，シアンを用いるか用いないかの方法選択ができる機種については，通常業務で用いている方法で行ってください。 〔試料の準備と測定〕 室温に15分間静置後，静かに転倒混和ときりもみを繰り返し行い，充分に混和してください。**（激しく振ることは絶対に避けてください）** よく混和された状態で，直ちに測定してください。 報告値については，「測定機種に依存する注意事項について」を参照してください。

6．成績報告締切：平成28年10月31日（月）

7．報告（臨床化学・血液）

日臨技システムでの報告となります。日本臨床衛生検査技師会の HP より JAMT　QC に入っていただき，参加登録，試料到着の登録を実施後，システムにて報告をお願いいたします。

8．参加費　　昨年までと同様に無料です。

9．目標値と評価基準について

1）臨床化学

グルコース（Glu），ナトリウム（Na），カリウム（K），クロール（Cl），カルシウム（Ca），尿酸（UA），尿素窒素（UN），クレアチニン（Cre），総コレステロール（TC），中性脂肪（TG），HDL- コレステロール（HDLC），LDL- コレステロール（LDLC），アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST），アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT），アルカリフォスファターゼ（ALP），乳酸デヒドロゲナーゼ（LD），アミラーゼ（AMY），クレアチンキナーゼ（CK），γ - グルタミルトランスフェラーゼ（GGT），コリンエステラーゼ（ChE），ヘモグロビン A1c（HbA1c）は次頁の表の標準物質及び測定方法で目標値を設定し、日本臨床衛生検査技師会精度管理調査の評価基準に準じて評価を行ないます。HDL- コレステロール（HDLC），LDL- コレステロール（LDLC）は測定試薬別に評価を行ないます。ドライケミストリー法も同様に評価を行います。日本臨床衛生検査技師会精度管理調査の評価基準を以下に示します。ただし，反応性等に問題が確認された場合，変更する場合があります。

総ビリルビン（TB），無機リン（IP），鉄（Fe），マグネシウム（Mg），総蛋白（TP），アルブミン（Alb），C 反応性蛋白（CRP）は評価せず，単純集計のみを実施します。

【日本臨床衛生検査技師会臨床化学部門評価基準】

項目，試料ごとに目標値を定め，さらに目標値に対して以下に示す評価幅を加え評価基準とする。

評価Ａ：「基準」を満たし，優れている

目標値±生理的変動を基に算出した施設間の許容誤差限界（analytical bias，BA）[*1)] 内の報告値。健常人の生理的変動幅から算出され，項目によっては大きな数値となっているため，上限を５％に設定した。

[*1)] BA：日本臨床化学会クオリティマネジメント専門委員会 ： 生理的機変動に基づいた臨床化学検査36項目における測定の許容誤差限界，臨床化学2006；35：144-153

評価Ｂ：「基準」を満たしている

目標値±体外診の性能確認幅[*2)] 内の報告値。但し，現状の収束状況を考慮し上限を５％と設定した。

[*2)] 体外診の性能確認幅：平成９年の医薬発 139 号の厚生省医薬安全局長通知（体外診断用医薬品の取扱いについて），医薬審第181号の医薬安全局長管理課長通知，厚生省医薬安全局審査管理課事務連絡（体外診断医薬品の申請の際の性能の確認について），等の許容測定変動係数（範囲）に準じた

評価Ｃ：「基準」を満たしておらず改善が必要

目標値±評価Ｂの幅を超え，この幅の最大1.5倍までの報告値。

評価Ｄ：「基準」を満たしておらず改善が必要

目標値±評価Ｃの幅を超えた報告値。

臨床化学目標値設定方法と評価基準

項目	単位	標準物質	測定方法	評価基準
グルコース（Glu）	mg/dL	ReCCS 標準品	ヘキソキナーゼ法，電極法	目標値±2.3%
ナトリウム（Na）	mEq/L		電極法	目標値±２mEq/L
カリウム（K）	mEq/L		電極法	目標値±0.15mEq/L
クロール（Cl）	mEq/L		電極法	目標値±２mEq/L
カルシウム（Ca）	mg/dL		各種測定方法	目標値±１％
尿酸（UA）	mg/dL		ウリカーゼ･POD 法	目標値±５％
尿素窒素（UN）	mg/dL		アンモニア消去法	目標値±５％
クレアチニン（Cre）	mg/dL		酵素法	目標値±５％
総コレステロール（TC）	mg/dL		酵素法	目標値±4.5%
中性脂肪（TG）	mg/dL		酵素法（FG 消去）	目標値±５％
HDL- コレステロール（HDLC）	mg/dL		各社直接法	目標値±５％
LDL- コレステロール（LDLC）	mg/dL		各社直接法	目標値±５％
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）	U/L	JCCLS CRM001	JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±５％
アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±５％
アルカリフォスファターゼ（ALP）	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±５％
乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±3.9%
アミラーゼ（AMY）	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±５％
クレアチンキナーゼ（CK）	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±５％
γ - グルタミルトランスフェラーゼ（GGT）	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±５％
コリンエステラーゼ（ChE）	U/L	JCCLS CRM002	JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±4.7%
ヘモグロビン A1c（HbA1c）	%	JCCRM411	HPLC 法	目標値±５％

２）血液

ヘモグロビン・血小板数・白血球数・赤血球数について，各メーカー製キャリブレーターにより校正が行われた装置で，測定の協力が得られた機種について，その値を目標値に設定し，機種別に評価基準に添って該当機種のサンプルについて評価を行ないます。ヘモグロビン・白血球数・赤血球数に

ついて，評価基準は臨床的許容限界 JCCLS, 1994を基に設定しました。

血小板数については，試料の目標値が基準値下限付近であることから，他県の精度管理の状況を参考に設定しました。

ヘマトクリットは評価せず，単純集計のみ実施します。

血液検査　評価基準

項目	単位	目標値設定装置	評価基準
ヘモグロビン	g/dL	ICSH　CLSI の推奨する国際標準法にトレーサビリティが確保された各メーカーキャリブレーターにより校正された装置	目標値±3.6%
血小板数	$\times 10^9$/L		目標値±10.0%
白血球数	$\times 10^9$/L		目標値±5.6%
赤血球数	$\times 10^{12}$/L		目標値±4.1%

3）一般フォトサーベイ

一般検査フォトサーベイを実施します。設問は12設問です。アンケートにもご協力ください。

1　問題について

平成28年10月24日（月）から，「日臨技精度管理調査システム」より閲覧・ダウンロードが可能です。

2　回答締切：平成28年10月31日（月）23：59

3　回答方法

日臨技精度管理調査システムより，下記の要領で「平成28年度新臨技一般フォトサーベイ手引書」をダウンロードし，よく読んで回答してください。手引書には，設問集と，フォト集が入っています。

4）微生物（薬剤感受性）精度管理調査実施要項

臨床検査精度管理協議会

1　検査開始日：試料を受取り次第，検査を開始してください。

2　検査項目：試料中に含まれる病原細菌のアンピシリン（ABPC），テイコプラニン（TEIC）バンコマイシン（VCM）３薬剤について薬剤感受性検査を実施してください。

3　検査方法：各施設で日常的に行っている方法で実施してください。

4　試 料：試料Ｃ（E. gallinarum）を用いて実施してください。

5　試料の取扱い：試料は検査開始まで冷蔵保存してください。また，試料には病原細菌が含まれていますので，取扱いには十分注意してください。

6　試料の調整：試料Ｃはカジトン培地にて保存してあります。

※一旦，ハートインフュジョンブイヨン培地等で増菌し，平板培地にひろげた後，独立集落を釣菌してください。（栄研化学 ポアメディア ® カジトン培地 添付文書より）

7　報告期限：平成28年11月11日（金）締め切り

8　報告方法：結果報告は WEB 報告とします。

４．生涯教育　　近藤　善仁

各検査研究班・各支部担当者にご尽力いただき，行事登録および参加者登録を行ってもらった。日臨技より支給される「生涯教育推進研修会助成金」の交付額は，19研修会・計759,000円を受け取ることができた。また，昨年度より日臨技情報総合システム（JAMTIS）が新システムとなったが，誤って旧システムで受付をした研修会がいくつかあった。テキストデータより手入力を行い，事なきを得たが，まだ JAMTIS の理解や操作に不慣れな状況であった。また，一部の会員から参加形式の誤りや参加登録漏れの指摘を受け，再登録処理を実施した。

広報部　　副会長　坂西　清

今年度も，新臨技会誌，新臨技ニュース，新臨技ホームページの運営を通じて全会員にリアルタイムに情報の提供が出来るよう心がけ，情報発信手段として安定した運営を目指し活動を行ってきた。新臨技ニュースは，理事会議事要旨，研修会案内および求人情報など新臨技の新しい情報をいち早く会員施設へ提供できた。ホームページにおいては，一般社団法人　新潟県臨床検査技師会広告掲載内規をもとに，規律ある運営に努めて来た。会誌に関しては，技師個人にも焦点をあてて，親しみやすい内容から，学術的な内容まで幅広い内容の会誌発行を務めてきた。

１）新臨技会誌　　齋藤　功英

〔講義・研究〕は基礎的内容と話題性を主に力を入れてきた。〔研修会報告〕は参加会員の協力得て研修会の雰囲気など，研修会をより身近に感じ，参加を促す頁とした。〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の思い出～奮闘記〕などの掲載で，会員相互の親睦をはかり，誰でも参加できる企画にした。また〔公益活動報告〕を掲載することにより臨床検査技師の啓蒙活動を，多くの会員に知っていただけるような情報ツールとした。〔施設紹介〕では検査室を紹介し施設情報の共有を図った。年４回　季刊発行（299号から302号まで）

＜平成28年度会誌掲載内容＞

299号　平成28年４月１日

【講　　義】血球計測における流れ学への招待　　新山　時弘
【研　　究】当院における甲状腺穿刺吸引細胞診鑑別困難例の検討　　林　真也
【おしらせ】北日本学会
【研修会参加報告】
神経生理セミナー2015に参加して　　渡邊　萌
臨床血液部門研修会に参加して　　大澤　まみ
臨床検査総合部門（公衆衛生）研修会に参加して　　昆　美也子
検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会に参加して　　金田恵美子
「検査と健康展」に参加して　　渡邉　誠
第２回下越支部研修会に参加して　　菊池　美紀
佐渡支部研修会に参加して　　遠藤　恭平
【施設紹介】社会医療法人　新潟臨港保健会　新潟万代病院　　伊藤　剛栄
【認定技師精度】細胞検査士　　柳原　優香
【ペンリレー】　　真嶋ちはる
【検査技師として～私の奮闘記～】
３年間を振り返って　　丸山　修平
検査技師として～私の奮闘記～　　西　大貴
検査技師として～私の奮闘記～　　堤　恭子
【会　　報】
平成28年度第 通常総会議案書
平成27年度第４回　理事会議事録
平成27年度第５回　理事会議事録
平成27年度第６回　理事会議事録
平成27年度第１月常任理事会議事録
新入会員紹介

会員消息
技師会日誌
【行事予定】

300号　平成28年７月１日
【あいさつ】新年度　あいさつ　渡邊　博昭
【講　　義】病理／細胞診日常業務と遺伝子検査　薄田　浩幸
【施設紹介】新潟白根総合病院　池田　　正
【受賞者のことば】
篠川至賞を受賞して　芳賀　博子
篠川至賞を受賞して　伊藤　剛栄
生涯教育新人賞を受賞して　齋藤　　温
【研修会参加報告】
下越支部研修会に参加して　鈴木　　明
上越支部研修会に参加して　横田亜由美
新潟支部研修会に参加して　鱒　奈都美
新潟支部生理研究班・新潟県臨床生理部門共催研修会に参加して　真嶋ちはる
輸血細胞治療部門の研修会に参加して　宇佐美宏晃
臨床微生物部門研修会に参加して　近藤　千草
組織強化セミナーに参加して　国井　康子
【ペンリレー】　藤原ゆう子
検査技師として～私の奮闘記～　原山　翔太
検査技師として～私の奮闘記
【会　　報】
平成27年度　３月常任理事会議事録
平成28年度　第１回理事会議事録
平成28年度　第２回理事会議事録
27年度　監査報告書
お詫びとお知らせ
平成28年度第１回通常総会からアンケート回答
新臨技会日誌
【行事予定】

301号　平成28年10 月１日
【講　　義】輸血検査の基礎知識　笹岡　悠一
検査室でできる亜型検査　古俣　　妙
【研修会参加報告】
輸血細胞治療部門研修会に参加して　荒木　晴香
輸血検査実技講習会に参加して　佐藤　麻実
佐渡支部研修会に参加して　披田野翔平
下越支部研修会に参加して　小林　裕真
生理検査基礎セミナーに参加して　松田　佳代

【認定技師資格紹介】日本救急医学会認定「ICLS コース」について　末永　有香
【施設紹介】　末広橋病院　田辺奈保子
【ペンリレー】　中村　岳史
【検査技師として～私の奮闘記～】
検査技師として～私の奮闘記～　貝沼　宏樹
検査技師として～私の奮闘記～　寺尾　勇祐
検査技師として～私の奮闘記～　内山　絢乃
【会　　報】
平成28年度　第３回理事会議事録
平成28年度　第４回理事会議事録
新入会員紹介
新臨技会日誌
【行事予定】

302号　平成29年１月１日

【あいさつ】年頭のご挨拶　渡邊　博昭
【講　　義】ISO15189認定取得について　井汲　善浩
血圧脈波検査の各種指標について　神保　俊介
【研修会参加報告】
臨床血液部門実技研修会に参加して　保田　剛史
超音波実技セミナーに参加して　武藤亜紗子
超音波実技セミナーに参加して　阿部　健司
臨床一般検査部門研修会に参加して　北神優太郎
上越支部秋季研修会に参加して　片沼　和輝
第５回日臨技北日本支部医学検査学会に参加して　鎌田真由美
第５回日臨技北日本支部医学検査学会に参加して　吉田　　彩
第５回日臨技北日本支部医学検査学会に参加して　坂内　政紀
【公益活動参加報告】
ピンクリボンホリデー2016に参加して　廣瀬　靖華
糖尿病を知るつどいに参加して　藤原ゆう子
新潟市民健康福祉まつりに参加して　細谷　　大
無料 HbA1c 測定会に参加して　皆川　萌美
【認定資格紹介】　日本糖尿病療養指導士　菅井　綾里
【ペンリレー】　三原　早貴
【検査技師として～私の奮闘記～】
検査技師として～私の奮闘記～　土屋ひらり
検査技師として～私の奮闘記～　松永　梨沙
検査技師として～私の奮闘記～　安達　俊幸
検査技師として～私の奮闘記～　斎藤　真美
【会　　報】
平成28年度第５回理事会議事録
平成28年度第６回理事会議事録

平成28年度第７回理事会議事録
新入会員紹介
技師会日誌
【行事予定】

２）新臨技ニュース　池上　喜久夫

理事会議事要旨，組織活動，研修会案内，求人情報など速報性・実用性のある情報を掲載してきた。また掲載情報の正確性・即時性を考慮し，可能な範囲で早く各施設に届くように努めてきた。発行は理事会終了後の月１回とした。

３）新臨技ホームページ　近藤　善仁

新臨技ホームページは案内・各支部活動・各研究班活動の内容がリアルタイムに閲覧でき好評である。

昨年度，リニューアルした検査研究部門のページは，一部部門を除きほとんど更新することがなかった。精度管理事業の施設別報告値一覧は，昨年度同様 web 上にて公開した。

第５回日臨技北日本支部学会の公式サイトを公開・運用した。

【主要行動報告】

１．北里大学保健衛生専門学院入学式に坂西副会長出席（４月６日）
２．新潟医療技術専門学校入学式に桑原副会長出席（４月７日）
３．編集委員会開催（４月13日）
４．第１回表彰委員会（４月16日）
５．学術部会議開催（４月16日）
６．第１回理事会（４月16日）
７．ピンクリボンホリデー実行委員会へ佐藤理事出席（５月10日）
８．篠川至賞選考委員会（５月14日）
９．平成27年度技師会監査（５月19日）
10. 第２回理事会（５月22日）
11. 組織強化セミナー・平成28年度総会（５月22日）
12. 健康寿命延伸にかかる多職種協働推進委員会へ坂西副会長出席（５月23日）
13. 日臨技宮島会長施設訪問に桑原副会長同行（５月23日）
14. 健康寿命延伸フォーラム打ち合わせ会へ桑原副会長出席（６月６日）
15. 第３回理事会（６月18日）
16. 第１回精度管理委員会開催（６月21日）
17. 編集委員会開催（６月22日）
18. 新潟県細胞検査士会総会に渡邊会長出席（６月25日）
19. 新潟県健康づくり財団第13回定時評議会へ渡邊会長出席（６月29日）
20. 第８回新潟県救急搬送・受入協議会へ渡邊理事出席（７月５日）
21. 第４回理事会（７月９日）
22. 平成28年度第１回精度管理協議会会議に坂西副会長，高口理事出席（７月20日）
23. 平成28年度第１回北日本幹事会（札幌）に渡邊会長出席（７月22日）
24. 日臨技出版ＷＧに坂西副会長出席（７月24日）
25. 健康寿命延伸フォーラムに関する打合わせ会に桑原副会長出席（７月27日）
26. 会計帳票について会計士と打合せに小柳事務局長出務（８月４日）

27. 新潟県臨床検査センター協議会（解散の集い）に渡邊会長出席（８月20日）
28. 新潟はっぴー乳ライフ実行委員会へ佐藤理事出席（８月23日）
29. 第５回理事会（８月27日）
30. 日臨技出版 WG・災害対策検討委員会（第65回検査学会）に坂西副会長出席（９月２～４日）
31. 健康寿命延伸フォーラムに関する打合わせ会に桑原副会長出席（９月８日）
32. 連盟執行委員会（東京都）へ坂西副会長出席（９月10日）
33. 健康寿命延伸フォーラムに桑原副会長，諸橋理事参加（９月22日）
34. 第６回理事会（９月24日）
35. 編集委員会開催（９月28日）
36. 糖尿病関連イベント打合せに佐藤理事出席（９月28日）
37. 北日本支部学会前日準備（９月30日）
38. 日臨技北日本支部医学検査学会（第５回）（10月１～２日）
39. 第33回がん征圧新潟県大会に坂西副会長出席（10月７日）
40. 日臨技宮島会長挨拶回りに桑原副会長同行（10月13日）
41. ピンクリボンホリデー2016にブース出展（10月16日）
42. 精度管理試料作製作業（10月20日）
43. 糖尿病を知る集いにブース出展（10月22日）
44. 精度管理試料発送作業（10月23日）
45. 第７回理事会（10月29日）
46. 日臨技教本シリーズ　臨床化学検査技術教本編集部会に坂西副会長出席（11月６日）
47. 新潟県医師会設立記念大会に渡邊会長出席（11月12日）
48. 無料 HbA1c 測定会（新潟駅南キャンパスときめいと）を実施（11月12日）
49. 平成28年度新潟栄養・食生活学会第２回役員会に渡邊会長出席（11月18日）
50. 日臨技認定救急検査技師 認定試験に坂西副会長出席（11月20日）
51. 11月常任理事会（11月23日）
52. 第４回精度管理委員会（11月25日）
53. 全国検査健康展を上越市にて開催（11月26日）
54. 日臨技第１回災害対策ワーキンググループに坂西副会長出席（12月２日）
55. 第５回精度管理委員会開催（12月11日）
56. 第８回理事会（12月17日）
57. 編集委員会（12月26日）
58. 平成28年度新潟県生活習慣病検診等管理指導協会循環器等検診部会に渡邊会長が出席（１月17日）
59. 平成28年度第２回臨床検査精度管理協議会に坂西副会長，高口理事が出席（１月20日）
60. 第９回理事会（１月21日）
61. 関連団体へ新年挨拶回り（１月23日）
62. H28年度第２回新潟県糖尿病対策推進会議に坂西副会長出席（２月10日）
63. 日臨技災害対策検討委員として第22回日本集団災害学医学会総会に坂西副会長出席（２月13日）
64. 第10回理事会（２月18日）
65. 新潟支部総会へ渡邊会長出席（２月19日）
66. 新潟県民医療推進協議会総会へ桑原副会長出席（２月24日）
67. 下越支部総会へ渡邊会長出席（２月25日）
68. 上越支部総会へ坂西副会長出席（２月25日）

69. 新潟市糖尿病対策推進会議へ佐藤理事出席（２月27日）
70. 精度管理調査検討会へ坂西副会長，齋藤理事，髙口理事出席（３月２日）
71. 第９回新潟県臨床細胞学会研修会へ渡邊会長出席（３月４日）
72. 検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会を開催（３月４日～５日）
73. 新潟医療技術専門学校卒業式へ桑原副会長出席（３月８日）
74. 佐渡支部総会へ桑原副会長出席（３月11日）
75. 新潟医療福祉大学卒業式へ渡邊会長出席（３月14日）
76. 新潟県健康づくり財団第14回臨時評議会へ渡邊会長出席（３月14日）
77. 北里大学保健衛生専門学院卒業式へ坂西副会長出席（３月15日）
78. 第11回理事会（３月18日）
79. 編集会議開催（３月30日）

事業報告に関わる附属明細書

事業報告を補足する事項はない。